

続・「記号づけ」英文読解入門

では今回は、実際に授業で記号をつけながら生徒と一緒に英文を読みたいと思います。プロジェクターに英文を写しだし、ペンタブレットで記号を記入しながら読んでいきます。(実物投影機でプリントを映して、鉛筆で書き込むという手もあります。)

三省堂のコミュニケーション英語Ⅱの教科書『CROWN』のレッスン1 Part1の英文に「記号づけ」をすると以下ようになります。実際には以下のような感じで記号の付け方を伝授していきます。現在校の場合1年生の1学期は初期指導という意味で毎時間10分程度日本語で解説しながら記号づけを伝授して、宿題も各自記号をつけて読むように指示をしています。第一段落を私の言葉をそのまま拾ってみるとこんな感じです。

「では最初の文から一緒に読んでいきますよ。① **William Kamkwamba grew up** [in a village of 60 families [in Malawi]] . **grew**が述語動詞だから○で囲みます。次、前置詞inがあるので句を作りますから括弧です... **60世帯の村で... マラウィの...** ② **when**は接続詞だから□で囲んで、**was**が動詞... **13歳の時...** (次のwasを囲みながら) **ひどい干ばつがあった...** ③ **彼は思い出します...** remembersが動詞 (○で囲む)... **家族が食べるのを... 一日一食だけ...** ここはネクサスになっています。(s' p' を書き込みながら) **家族が... 食べるのを... 思い出す...** という感じです... ④ **彼はやめるしかなかった...** had to dropは3つで一つの動詞句ですから大きく囲みますよ。(out of schoolを括弧で括りながら) **学校から...** becauseが接続詞なので□... **なぜなら家族が授業料払えなかったから...** となります。could not payはこんな感じでカプセルのように記号を付けて下さい。」

なんとなくイメージしていただけましたか。10分程度で記号づけの解説をした後、英問英答や音読、再話活動などを行っています。なるべく1学期のうちに記号づけは習慣づけてしまうようにしています。

William Kamkwamba (grew) up [in a village of 60 families [in Malawi]] .
ウイリアム・カムクワンバは育った 60世帯の村で マラウィの

When he (was) 13, there (was) a terrible drought. He (remembers) his family' s
13歳の時 ひどい干ばつが起きた 彼は思い出す 家族が S

eating only one meal a day. He (had to | drop) [out of school] (because) his family
p' 一日一食しか食べてなかったのを 彼は学校を退学するしかなかった 家族が

(could) | not | (pay) the tuition.
授業料を払えなかったので

William (spent) his days [in the village library] . He (could) | hardly | (read)
ウイリアムは日々を過ごした 村の図書館で 彼は英語をほとんど読めなかった

English, but he (studied) pictures [in the books] . He (saw) a photo [of a windmill
しかし彼は本の絵を観察した 彼は写真を見た

[making electricity]] and (thought), "If they (can | make) electricity [out of wind],

電気を作っている風車の

そして思った

「彼らが電気を作れるなら

風から

I (can | try) too.”

ばくにもできる」と

It (is) hard [to (believe) that] a boy [from such a poor village] (developed)

それは難しい

信じることは

そんな貧しい村の1人の少年が

関心を深めたこと

an interest [in technology]]. But that (is) just [what] William (did). [In 2002],

テクノロジーに

しかしそれがまさに彼がやったことである

2002年

(when) he (was) 14, he (built) a windmill [out of broken parts [from bicycles and

彼が14歳の時

彼は風車を作った

壊れた部品から

自転車や車の

cars] and wood [from the village trees]]. The whole thing (looked) [like junk].

また村の木の木材から

それ全体がガラクタのように見えた

記号づけに興味を持っていただけた方に一文ずつ少し解説を加えます。

① William Kamkwamba (grew) up [in a village of 60 families [in Malawi]].

まず第一文ですが grew up で育つと覚えていると思いますので、慣れてきたら grew up で○で囲んでも良いかもしれませんが、しかし grew him up となった場合、grew は「育てた」と他動詞の意味になるわけですし、混乱も予想されます。その辺は生徒の学力に応じて指導してください。of 60 families も、もちろん括弧で括って構いません。しかし「～の」と訳す of は比較的区切らずひとまとまりで訳せる生徒が多いかと思います。終わりの]] となっている部分ですが、頭からフレーズ訳していく場合は不要かもしれません。いちいち何個括弧が必要かを考えるということは、視線をいちいち前に戻さなくては行けないので読むスピードが遅くなってしまいますから。さてフレーズ訳の区切りですが、記号をつけながらフレーズ訳を作る場合ですが、2CP±1 というのが原則です。CPとは content phrase 内容語句(名詞・動詞・副詞・形容詞)のことです。前置詞・接続詞・疑問詞・代名詞などは機能語と呼ばれています。内容語句3つまでで区切って訳していくと早くリズムカルに処理できます。

② (When) he (was) 13, there (was) a terrible drought.

接続詞は□で囲みます。○が2つある場合は必ず一つ□があるはずです。もちろん that 節の that など省略されてることもあります。記号づけを訓練することで省略にも気が付くようになります。

③ He (remembers) his family's eating only one meal a day.

remembers の後ろがネクサスで動名詞の意味上の主語が his family's ですので s'の記号をつけてます。eating が述部該当箇所なので p'と書き込みます。

④ He (had to | drop) [out of school] (because) his family (could) | not | (pay) the tuition.

これも①同様 had to drop out で○で囲んでも構いません。どのみちフレーズ訳作る

には「退学する」と一瞬で出来た方が早く読める訳ですから。記号をつけることが目的ではなく、あくまで英文を早く正確に読むことが目的です。しかし正確にという意味においては drop のみを○で囲み、フレーズ訳を作るときに後ろにくる語句を見て判断するようにしておいた方が応用が利くと思います。because が□でここも○が2つで□が一つの複文になっています。□の前後で2つのカタマリぐらいの意識で一瞬で意味処理できるようにしたいものです。

⑤ William (spent) his days [in the village library] .

特に問題はないはずです。

⑥ He (could | hardly | read) English, but he (studied) pictures [in the books] .

高校では中学の時は not と never しか入らなかった部分にいろんな副詞が入りますが、記号をつけさせることでそのことを意識化させられます。pictures in the books ですがこの in the books が形容詞句か副詞句かの判断が「文脈判断なので」生徒には難しいです。「本で写真を研究した」のか、「本の写真を研究した」のかの判断です。後置修飾された名詞句の数あるパターンの中でも名詞 [前置詞句] の形の判別が一番指導するのが難しい気がします。ここでは形容詞句だと判断しました。

⑦ He (saw) a photo [of a windmill [making electricity]] and (thought), [if they (can | make) electricity [out of wind] , I (can | try) too.”

saw は知覚動詞なので後ろにネクサス (5文型のOとC) を予想しましたが、a photo が making electricity では変なのでネクサスではありません。強いて言えば windmill と making electricity の部分がネクサスになっていますので「風車が電気を起こしている 写真」と解釈するのは間違いではないと思います。しかし、ここは中学で習った現在分詞の後置修飾としての処理で良いかと思います。thought の前は and で等位接続詞ですから□で囲んでいません。原則従属接続詞しか□で囲んでいません。ですからここは□がなくても○が2つです。また thought の後ろに that 節ではなく直説話法の形で引用句が続いているので、○が4つですが□が一つしかないのも当たり前です。

⑧ It (is) hard [to | believe] that a boy [from such a poor village] (developed) an interest [in technology]] .

believe の後ろに that 節が続くのですが、from such a poor village で形容詞句となり a boy を修飾しています。in technology も an interest を修飾する形容詞句です。

⑨ But that (is) just [what] William (did)] .

what は関係代名詞ですが、「こと・もの」と訳して名詞節を作ります。関係詞は先行詞を修飾する「形容詞節」になるのに、この what だけは「名詞節」を作るということもここで指導できるチャンスです。同時にここで「すべての疑問詞は名詞節を作ることができる」ということも教えると、疑問詞を文中に見た段階で [□_○] という名詞節を予

測して括弧でくくってカタマリとして意識できるようになると思います。

⑩ [In 2002], when he (was) 14, he (built) a windmill [out of broken parts [from bicycles and cars] **and** wood [from the village trees]] .

生徒にとって意外に難しいのはこの **and** です。何と何を並べているのか考えないといけないからです。wood と並べているのは broken parts です。cars の後ろの] が大切です。

⑪ The whole thing (looked) [like junk] .

特に問題ないかもしれませんが、年のためこの like を動詞と思って○つけてる生徒がいないか確認した方がよいかもしれません。

以上で教科書の英文を使った実際の記号づけの指導の説明は終わりです。生徒のレベルによっては教員のほうであらかじめ、英文に記号をつけ、単語の意味を与え、フレーズの区切りに小さく番号をつけたプリント（番号付けプリント）を作ってしまう、授業では生徒に番号毎にフレーズ訳を作らせる方がスムーズに行く場合もあるかと思います。（実はそれぞれの段階に応じたプリント案も研究会にはあります。）しかしその場合も教師自身が記号づけできないと作れません。是非、先生方が記号づけをマスターして下さい。この解説が少しでもお役に立てば幸いです。

今回は凄く流行った曲 **Let it go** を使って「リズム読み」のプリント作成について書きたいと思います。